

ふく やま じょう まつ まえ じょう ほん まる ご もん
福山城(松前城)本丸御門

■指定年月日／昭和25年8月29日
 ■所在／松前町字松城
 ■管理／松前町



本丸御門

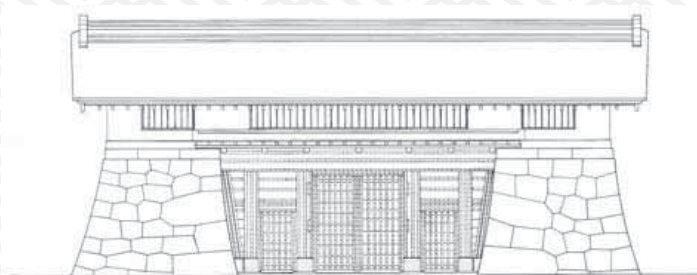
福山城は、松前城とも呼ばれ、北辺警備の重要性から幕府が特旨^{とくし}をもって築城を命じたもので、高崎藩の兵学者市川一学の設計により、嘉永3年(1850)に着工^{あんせい}し、安政元年(1854)に完成した、わが国最北に位置する、最後の日本式城郭である。

明治8年までに、城内は開拓使の命によって取り壊しとなった。その際残された三層天守と本丸御門および東塀が昭和16年に国宝指定となった。しかし、昭和24年6月5日、役場火災の飛火によって天守・東塀は焼失し、本丸御門(大手門)を残すのみとなった。

福山城唯一の遺構となった本丸御門(大手門)は、昭和25年8月29日重要文化財に指定された。

構造形式等は、次のとおりである。

- 名称／福山城(松前城)本丸御門
- 棟数／1棟
- 構造形式



切妻造り、銅板葺き、三間一戸両脇戸付き櫓門。南に面し、東方の三重櫓(天守)との間に塀が取り付けられている。

《下階(門)》

礎石 かこうがん 花崗岩切石、ほうぎょうはしらぎ 方形柱座造り出し。全面花崗岩切石四半敷とする。二階の両翼部がたつ石垣(槽台)は、高一丈三尺(3,939m)で凝灰岩切込^{きりこみ}知ぎ。

桁行正面三間 けたゆき **背面一間** はりま **梁間一間** 正面、鏡柱、脇柱、寄せ掛け柱、冠木、各角柱、寄せ掛け柱は石垣面にひかりつけ石垣勾配に合わせて傾斜して建つ。

中央間 りょううちびらきおとびら 両内開大扉。四周框を廻し内側^{かまち} 縦格子組、貫三通り、外側横板張り銅製筋金物打ち、肘壺釣り、門戸締。

内部両脇 石垣面に添って部屋を造る。各間、中敷居、厚鴨居。東の部分には階段を設ける。

《上階(櫓)》

桁行九間 そうかくはしら 梁間二間、総角柱、両端二間は石垣の上に建つ。

内部 桁行方向2列各8本の柱が立つ。

化粧小屋裏 小屋梁、束角材。

床 拭板張り。正面側棧梁の持ち出し上部床面6カ所に揚板式の石落としを設ける。

南の面 格子窓、内側^{つちと} 土戸引き込み。

東西面 総塗込み白漆喰仕上げ。

北の面 柱が極端に低く、壁をつくらず開放される。

軒 ひじき 持ち送り肘木、しげたるき 小屋梁、たるきさき 軒桁、出桁、一間半繁垂木、軒裏、垂木先銅板包み。南門上部^{ひさし} 庇は、棧梁上出桁、一軒半一間半^{しげたるき} 繁垂木、茅負、布板軒付。

妻飾り つまかざ 猪目懸魚^{いのめげぎょひれつき} 付、破風、けらば 螻羽軒裏、前面銅版包み。

屋根 切妻造、棟を前方へずらし背面は流す。箱棟、鬼板、全面銅版包みである。

■規模／

桁行 16.36m

梁間 4.54m

軒出 1.39m

軒高 5.81m

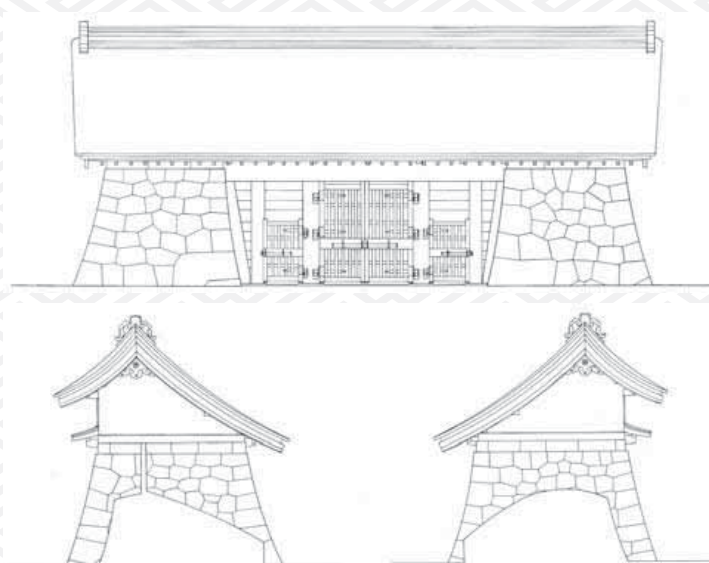
■平面積

1階 26.07㎡

2階 74.27㎡

屋根面積

平葺 133.45㎡



■昭和59年から60年にかけて、大規模な修理工事が行われたが、その工事は、文化財保護法に基づく国庫補助事業として、文化庁建造物課の指導のもとに、設計管理は松前町教育委員会が行った。修理は、総事業費5,280万円で24ヵ月を要した。